

とよの 授業スタンダード

「主体的・対話的で深い学び」の授業

～「教員がどう教えるか」から「子どもがどう学ぶか」を意識して～

『主体的・対話的で深い学び』の授業づくり 4つのポイント

- ① 【めあての提示】 子どもたちの問いから、学習内容、教材を通して学習課題を設定する。
- ② 【教材との対話】 自分なりの考えを、根拠をもとに記述できるようにする。
- ③ 【他者との対話】 ペア・グループ・全体での学習形態を活用し、自分の考えと友だちの考えを比較・分類・関連付ける等により、思考を深められることができるようにする。
- ④ 【ふりかえり】 学習のめあてに対してどうだったか、自分の考えの変容や友だちの考えの良さ等についてふりかえり、記述できるようにする。

(参考資料：大阪の授業 STANDARD 府教育センター 平成 24 年 5 月)

① 課題の設定

- ・子どもが自分の問題として受け止められるようないくつかの要素（驚き・不思議さ「エッ、どうして?」、必要感「何とかならないか」、不都合感「これじゃ、ダメだ」）を含んでいることが重要。
- ・子どもの情意的側面に刺激を与え、興味や関心・意欲といった学びへのモチベーションにつながる要素を含んでいることが重要。

② 自力解決への支援

- ・子どもが意欲的に向き合えないという状況があるが、それは、子どもが解決の糸口をつかめていないからだにとらえる。
- ・見通しをもたせるという活動が大切。今までの学習を手立てとすることにより「とにかくやってみよう」という試行錯誤の活動は、「こうすれば、こうなるのじゃないか」という活動へと変わっていく。
- ・「どうすればこの学習課題を解決できるだろうか」と考えるとき、これまでの経験や既に持っている知識で解決の糸口をつかませる。

③ ペア学習・グループ学習、全体交流

みんなで、考えの比較検討を行う

- ・一人で向き合う段階では、自分の考えを「書く」という活動で表現していくが、つなげる段階では、自分の考えを発表し友だちに伝えるという活動を行うので「表現する」という活動が重要になってくる。
- ・発表させる考えは、比較検討させた結果、本時の目標に到達するように、必要な代表的意見を複数取り上げる。小学校の発達段階では、多くても5つぐらいに留めておく。中学校では、もう少し多くてもよい。
- ・いろいろな考えをすべて取り上げると比較検討が難しくなってくるため、発達段階に応じて比較・検討可能な数を取り上げることが大切。

④ 学習のまとめ、ふりかえりの仕方

授業のまとめは、一人ひとりのわかり方が現れるものである必要がある

- ・子どもたちは一人ひとり分かったこと、印象に残ったこと、大切だと感じたことに違いがある。
- ・子どもたち自身が、どのような学びをしたのか、どこでつまづいたのか、どこかの理解が難しかったのかを把握することが、次時の適切な手立てにつながる。
- ・発達段階に応じた書かせ方を工夫するとともに、継続して取り組ませ、少しずつ育てていくことが大切。また、的確にまとめられたものは掲示する等して、子どもたちによいまとめを示していくことも重要。